

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	基礎看護学実習 I (日常生活援助)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1学年	学期及び曜時限	前期	教室名	各実習施設
担 当 教 員	柏原 弘子	実務経験と その関連資格	看護師 病院,施設等で19年勤務 教育機関等勤務		
《科目目標》 <基礎看護学実習 I -①> 地域で暮らす人々の療養の場の多様性を学ぶ。 <基礎看護学実習 I -②> 療養環境および療養生活をおくる対象を理解する。					
《成績評価の方法と基準》 【評価方法】 基礎看護学実習 I の評価表に基づいて行う 【評価基準】 優:80点以上、良:70点以上80点未満、可:60点以上70点未満、不可:60点未満 【配分】 基礎看護学実習 I -①25点、基礎看護学実習 I -②75点					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学① 看護学概論 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術 I ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 II □					
《授業外における学習方法》 事前学習、課題学習を行う。					
《履修に当たっての留意点》 臨床現場でこれまでに学び、演習してきたことを考え実践することで、多くの知識・技術・態度を身につけることを目指す					
実習プログラム					
実習期間 時間数	<基礎看護学実習 I -①> 2026 年 6月 <基礎看護学実習 I -②> 2026 年 9月				
実習の目的	<基礎看護学実習 I -①> 医療施設における療養の実際を知る。 介護施設における療養の実際を知る。 通所施設における療養の実際を知る。 <基礎看護学実習 I -②> 対象の療養環境と行われている日常生活援助について知る。 コミュニケーション技術を用いて対象を理解する。 看護学生として倫理的に望ましい態度で実習に臨むことができる。				
実習の内容	<基礎看護学実習 I -①> 1)施設の役割、機能を知る。 2)療養環境を知る。 3)施設内での1日の過ごし方について知る。 <基礎看護学実習 I -②> 1)対象の療養環境と1日の過ごし方を知ることができる。 2)対象の日常生活の必要性とその方法の意味を考えることができる。 3)原理原則に基づいた看護技術を用いて日常生活援助が実施できる。 4)実施した援助を安全・安楽から振り返り次回の工夫点を考えられる。 5)コミュニケーション技法を用いて対象の思いを知ることができる。 6)看護学生として自覚を持ち行動できる。				